第5回すくわくプログラム

今月のテーマは「流木アートに挑戦！」

しおどめ保育園稲城では、東京都の「すくわくプログラム」を通して、子どもたちが創造的に手を動かす時間を大切にしています。11月は、海や川が運んだ自然素材“流木”を使ったアートづくりに挑戦しました。
思い思いの形や大きさの流木を組み合わせ、紙粘土・ボンド・モール・毛糸・ワイヤーなど、さまざまな素材で飾りつけていきます。自然物に触れながら、自分たちのイメージを立体のオブジェとして形にしていく活動です。

流木を囲んで相談中

TOPICS-1　4歳児

4歳児クラス「電車」チーム ＆「カブトムシ」チーム

4歳児は2つのグループに分かれ、最初に「何を作るか」をみんなで話し合うところからスタートしました。ひとつのチームは「電車」、もう一方は「カブトムシ」に決定。しかし、いざ制作が始まると、イメージを共有しながらひとつの形にしていくことは予想以上に難しかったようです。「ここが足だよ」「これはどこにつける？」と相談しながらも、流木の形は一つひとつ違うため、思った通りにつかず戸惑う姿も。それでも、紙粘土で固定し、毛糸で飾り、仲間と力を合わせながら少しずつ形が見えてくると、表情も明るくなりました。完成したオブジェは、子どもたちの発想力がそのまま表れた、力強くユニークな作品に仕上がりました。

講師の説明に興味津々

配置をみんなで決定

ここをしばって…

飾りつけを考え中

作品「電車」

作品「カブトムシ」

TOPICS-2　5歳児

5歳児クラス「牛」チーム ＆「オオクワガタ」チーム

5歳児も同じく2つのチームに分かれ、「牛」「オオクワガタ」をつくることに。話し合いの段階では「角はどうする？」「足は何本？」と、具体的なイメージを言葉にする姿が多く見られました。しかし、実際に制作すると流木の形や向きによって思い通りにいかず、チームで共有していたイメージとの“ズレ”が生まれる場面も。
そのたびに「じゃあここを胴体にしよう」「この木、足っぽいよ」と、素材を見立て直していく姿は、まるで小さなアーティスト。モールやワイヤーで細部を作り込むと、一気に“その生き物らしさ”が生まれ、子どもたちからは「おお〜できてきた！」という喜びの声があがっていました。

素材をじっくり観察

向きと形を相談

細部を作りこむ

形が見えてきた

最後の仕上げ中

作品「牛」

作品「オオクワガタ」

「流木の形に合わせて作ることは大人でも難しいのに、子どもたちは諦めずに“どうしたらそれっぽく見えるか”をみんなで考えていました。話し合いながら作る難しさはありましたが、それぞれが素材をよく見て、自分のアイデアを出し合う姿がとても頼もしかったです。」（取材：大関）